

新潟教育研究所

令和8年3月1日発行 第58号

公益財団法人新潟教育会
新潟教育研究所

〒951-8104

新潟市中央区西大畑町590-3
URL <http://kyouikukai.jp>

新潟教育会館

TEL・FAX 025-222-2971

E-mail kenkyujo@kyouikukai.jp

違う世界に触れてみて

富山大学大学院
教職実践開発研究科

教授 長谷川 春生



大先輩から「自分の授業を論文にまとめて発表する教員が少なくなった」とのお話をうかがいました。筆者は小学校教員のとき、県教育委員会から大学院進学をいただきました。そのため、学会発表や論文執筆の機会もたくさんありました。大学院での学びは、その後の勤務校での授業改善等に大きく役立つものであったのですが、本稿では、少し違う視点から考えを述べます。

筆者にとっての大学院進学は、毎日勤務している学校というコミュニティーの外にある世界とつながることであったように思います。当初、学会で発表したときは、興味はもってもらえましたが、十分には理解してもらえませんでした。例えば、それまで参加していた小学校等での研究会の協議会では、授業の進め方の基本、児童理解、授業評価等について、小学校教員として共通に理解していることが多く、それは言わなくても分かるということが多かったと感じます。しかし、学会発表では、そのような前提はなく、大学等の研究者には、こちらの考えがうまく伝わらないような感覚がありました。言葉が通じない感じです。授業の評価を例にとっても、研究者の手法は、今まで自分がしてきた手法とは異なるものが多く、自分が知っていることは、多くの評価法の中ほんの少しであることを強く実感しました。今までとは違う世界があるように感じました。

このように、筆者にとっての大学院進学は、普段自分がいる世界から一歩踏み出し、違う世界を

体験する貴重な機会となりました。

リンダ・グラットン氏らの著書「ライフ・シフト」では、人生は100年時代であり、今までの「教育→仕事→引退」の3ステージから、マルチステージの時代になるとされています。キャリアの途中で「学び直し」等の機会を作るようにして、働き方や役割も変えながら、複数のステージを経験するというものです。多少無理な例えかもしれませんが、筆者にとっての「学び直し」は、大学院進学であったように感じます。

現在勤務する大学の教員は、もちろん最初から大学の教員という方も多いですが、マルチステージを生きる方もたくさんいます。小中学校等の教員からだけでなく、様々な組織や企業からの転職者の方もいます。互いのバックグラウンドを生かしながら、協力して教育や研究に取り組んでいます。そのような方々とお話をすると、「仕事を変える中で、人とのネットワークが広がっていくところがよい」「いろいろとやることを変える中で、自分の本当に得意なことが分かってくるのでよい」とのことです。

一つの職業に専念して専門性を高めていくことも、もちろん大切で貴重なことです。また、小中学校等の教員は、校務分掌において役割を変えながらキャリアを形成していくため、職能においてマルチステージ的な側面があると考えられます。そうではあるのですが、少し異なるキャリアの話を見せていただきました。

不登校児童生徒の支援で大切にしたいこと



新潟大学教職大学院

准教授 酒井 武志

はじめに

文部科学省（2025）は、令和6年度不登校児童生徒数が全国の小・中学校で約35万人となり、前年度に比べ約1万人増加し、12年連続の増加と発表しました（新潟県は5,829人で約200人増、新潟市は2,301人で約20人増）。不登校の原因が複雑化・多様化する中、文部科学省（2023）は「COCOLOプラン」をまとめ、各校で校内教育支援センター（SSR）の設置が急速に進められるなど、不登校対策は喫緊の課題となっています。

1 不登校児童生徒の意向を尊重していけるように、本人と関わる工夫をしていくこと

教師は子どもの話を聴き、困り感などを受け止めることは、児童生徒理解に不可欠と言えます。その際、言葉以外の情報（表情、声のトーン、態度、服装、行動等）にアンテナを張ることが重要です。また、不登校児童生徒と常に対面できるには限らないことから、電話や「一人一台端末」を用いたビデオ通話・メールなど遠隔のやりとりも考えられます。もし、本人とやりとりの機会がもてていない場合には、保護者を中心に家族や関係者から本人の情報を得ていく必要があります。

そのプロセスにおいては、「子どもの権利条約」（1994）及び「子ども基本法」（2023）の観点から、不登校児童生徒の意見表明権を保障し、最善の利益を確保し、本人の考えや思いなどの意向を可能な限り受け止め支援する姿勢が求められます。仮に、本人に意向がなかったり、発達段階的にうま

く伝えられなかったりしても、直接・間接的に本人とつながる方法を模索し、「先生は本気で自分のことを考えようとしてくれている」と本人に感じさせられるよう工夫していく。このような姿勢を通して、本人は安心感や大人を信じる経験を得て、社会性形成の基礎を身に付けていきます。

2 不登校児童生徒の実行可能な取組を継続しいけるように、本人に伴走していくこと

不登校児童生徒の意向や最善の利益を満たし、上記の社会性に加え、学習面や生活面で自身が「楽しい」「分かった」「できた」と充実感・達成感を得られるよう支援する。そして、「この先生なら自分のことを何とかしてくれそうだ」と信頼される関わりを継続し伴走することで、教師が本人と相互的な関係性を築く可能性が高まります。

不登校状態が改善すると、教師も本人も高い目標を求めがちになりますが、本人が目標達成できず不信感や自信喪失を経験することも多々あります。神村（2019）の「目標までの経路をスモールステップ化し、行けるところまでの接近を繰り返していく（漸次的接近）」を参考に、教師も本人も実行可能性に留意して進めることが大切です。

終わりに

以上の実現に向け、担任教師が一人で抱え込まず、他の支援者と連携して対応できるチーム支援体制が各校で一層機能することを期待しています。

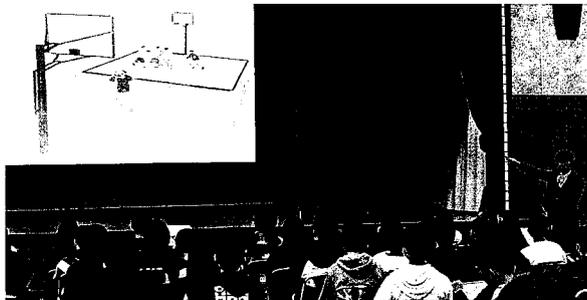
「人間関係について深く考える 道徳の授業」について

新潟市立巻南小学校
教頭 田代 豪

教育アドバイザーの吉原修英先生から「昼休みのコート」を題材に、6学年全体で特別道徳授業と児童・保護者・教職員を対象とした講義を行っていただきました。

特別道徳授業の前半の展開では、問題を解決するための行動の仕方について考えました。「A言葉や力で、コートから光太を追い出そうとする」「B昨日と同じく、フルコートで試合をする」「C一昨日と同じく、ハーフコートで試合をする」「Dそのほかの行動を取る」という4つの行動が提示され、「自分が洋だったら、4つのどの行動を取りますか」と発問がありました。その結果、多くの児童はDの行動を選択しました。児童からは、「平和的な解決にならないから」「これをする先生に叱られるから」「これは、いじめだ」という意見が出され、問題を平和に解決しようとする意見が全体で共有されました。

特別道徳授業の後半の展開では、物語終盤の洋の取った行動に注目しました。「洋が取った行動をするとお話のような結果につながると考えますか」という発問により児童は、問題を自分事とし



てとらえだしました。児童は、自分の経験と登場人物を重ね合わせ、自分ならどのような気持ちで問題に向かい、どのような行動を取るか考えました。その結果、話さないと相手の気持ちが分からないという理由から、再度多くの児童がDを選択しました。児童のコメントには「光太にも理由があって練習していると思う。Aは光太の人権を無視しているからだめ。Bは光太にけがをさせてしまうからだめ。Dは話し合ったりすると、いっしょにフルコートでできるかもしれないから。続きの話を聞いてなにか行動していたのがDだと思ったから」という意見がありました。

しかしながら、Dの行動を選択した児童であっても、「自分は洋のように言えない」「光太の気持ちが分かってもコートに分けるかどうか分からない」など全体で共有された解決策を踏まえた上で、自分が納得できる行動を探していくうちに、「分かっているけどできない自分」に気付く児童も出てきました。

今回の道徳の授業により児童は、行動の背後にある感情や考えに目を向けることの大切さを実感できました。また、自分ができる問題の解決策を考えていく中で、「〇〇するとどうなるか」という道徳的判断力が働いた授業となりました。

資料：「昼休みのコートで」概要

洋の楽しみは、昼休みに校庭のコートで6年生の友達と一緒にバスケットボールをすることだ。最近、他の学年の子が来ないので、毎日フルコートで試合をすることができていた。しかし、ある日の昼休みに洋たちがコートに行くと、となりのクラスの光太がひとりでシュート練習をしていた。洋は、試合ができないから、光太を仲間に入れようと思い、「いっしょに試合をしよう!」と光太に声をかけたが、光太は仲間に入らず、ひとりで練習を続ける。仕方がないので洋たちはハーフコートで試合をするが、次の日も光太はひとりでシュート練習を行っていた。

資料後半で、洋は「ぼくたちも、みんなで試合をするのを楽しみにしているんだ。なんでひとりで練習しているのか聞かせてくれよ。」と光太に話しかける。洋と光太のやりとりの結果、洋たちはハーフコートで試合、光太はひとりでシュート練習をすることとなった。

「道徳6 きみがいちばんひかるとき 光村図書」より

教育アドバイザー派遣事業について

1. 教育アドバイザー要請の仕方

校内研修で、研究会で、PTAの講演会で、研究サークル、個人等で、「あの先生にアドバイスを受けたい、話をしてもらいたい」と思ったら……

(1) まず事務局にお電話をください。

→ 新潟教育会事務局「025-222-2971」へ

その際、招請したい教育アドバイザー、期日、内容、会場、参加人数等をお知らせください。

(2) 事務局が教育アドバイザーに連絡をとります。

(3) 依頼者に承諾の結果をお知らせします。

3. 令和7年度末教育アドバイザーリスト

No	氏名	支援分野
1	相澤 祐助	学級経営
2	新井 秀和	特別支援教育/教育相談
3	荒木 一成	生涯学習/学校経営/地域連携
4	有田 一正	社会
5	有本 秀雄	学校経営
6	五十嵐 喜代春	生徒指導/危機管理
7	生田 雅之	特別支援教育/生徒指導/教育相談
8	池野 正晴	算数/学校経営
9	池乗 節子	国語/キャリア教育
10	池藤 仁市	生涯学習
11	石川 治	国語
12	石坂 学	理科/学校経営
13	市島 誠一	生徒指導/部活動指導
14	伊藤 順治	道徳/学校経営
15	伊藤 守	国語
16	伊藤 充	社会/学校経営
17	井上 正裕	理科/学校経営
18	井ノ川 茂徳	外国語(小英語)
19	宇ノ井 修二	社会/生涯学習
20	永川 幸洋	生徒指導
21	遠藤 英和	算数/学校経営/危機管理
22	太田 三平	音楽/生徒指導
23	大竹 嘉則	特別支援教育
24	大津 政好	算数・数学
25	大橋 伸夫	学校経営
26	緒方 猛	理科
27	岡村 秀一	数学
28	小谷 太郎	社会/生活/総合/学校運営
29	小野 郁夫	生徒指導
30	金子 明子	カウンセリング/学校経営
31	上澤田 誠	体育/水泳指導
32	上村 茂	生徒指導
33	川井 重利	音楽/合唱指導
34	川合 千尋	理科
35	川崎 正男	生活/社会/総合
36	川端 弘実	社会/学校経営
37	岸本 賢一	危機管理
38	熊倉 達也	理科
39	古田島 恵津子	特別支援教育
40	小林 恵子	外国語(小・中英語)/食育
41	小林 勉	理科/教育相談
42	小林 広紀	特別活動/学級経営
43	今 範男	保健体育
44	齋藤 いづみ	特別支援教育
45	齋藤 純一	国語
46	齋藤 裕子	外国語/家庭
47	捧 信之	社会/道徳
48	佐藤 昇誠	特別支援教育
49	佐藤 隆夫	教育相談/カウンセリング
50	佐藤 浩一	国語/学校経営

(4) 応諾であれば、依頼者が教育アドバイザーに詳細を連絡してください。

* 事前に教育アドバイザーと連絡を取り、結果を事務局にお知らせいただく形でも結構です。

2. 派遣経費について

交通費を考慮した謝金は、年度内で連続して同一の教育アドバイザー派遣を要請する場合、初めの1回分だけ当方が負担します。2回目以降は利用者が負担となります。

教育委員会からの要請はご相談ください。

No	氏名	支援分野
51	佐藤 靖子	家庭/美術/キャリア教育
52	渋谷 一男	学校経営
53	渋谷 徹	国語/外国語(小)/学校マネジメント
54	下村 芳明	図画工作
55	庄山 佳代子	音楽/合奏指導
56	白石 誠史郎	危機管理
57	杉坂 芳文	国語/特別支援教育/生徒指導
58	杉中 宏	体育/学校経営
59	高橋 恒彦	音楽
60	高橋 透	数学/生徒指導
61	高橋 昌利	生活/総合/学校経営
62	田中 恒夫	外国語/学校経営
63	津野 庄一郎	社会
64	津野 治彦	社会
65	外山 武夫	特別支援教育
66	永井 一哉	生徒指導
67	永井 高志	図画工作・美術/学校経営
68	中田 仁司	生活
69	西澤 真一	国語/学校経営
70	根岸 恵美	生活/総合
71	橋本 定男	特別活動/学級経営
72	長谷川 智	体育/生徒指導/学校経営
73	長谷川 恵	美術
74	畠山 典子	幼児教育/人権教育
75	濱田 浩昭	人権教育・同和教育
76	林 順一	数学/学校経営
77	笛木 晶子	音楽/合唱指導
78	福島 實	学校経営/学校運営/生涯学習
79	藤本 洋則	生徒指導/学校経営
80	逸見 東子	技術・家庭/学校経営
81	星 伸二	美術
82	堀川 雅司	音楽/吹奏楽指導
83	牧 弘樹	理科
84	間嶋 哲	算数・数学/学校経営
85	松井 謙太	図画工作/防災教育
86	丸田 俊一	理科/総合/学校経営
87	水谷 武	特別支援教育
88	宮川 由美子	音楽/生徒指導
89	村山 敬介	生徒指導/カウンセリング
90	山川 辰也	特別支援教育/教育相談
91	山崎 喜久治	部活指導(バレーボール初級)
92	山田 裕之	理科/学校経営
93	山本 正義	情報教育
94	湯本 正明	特別活動
95	吉澤 克彦	カウンセリング
96	吉田 隆	社会/ESD/学校経営
97	吉田 亨	算数
98	吉田 富貴子	家庭/幼児教育/書写
99	吉原 修英	道徳
100	渡辺 淳	生涯学習/学校経営/地域連携

*名簿は50音順